

パーキンソン病をまだご存じない方もいらっしゃると思いますが、意外と多い病気です。最も目立つ症状は「ふるえ」で、とても寒い日や緊張するような場面では誰しもがふるえますが、そついつ環境とは無関係に、自宅でテレビを見ていたりときや、何か別のごことに集中しているときなどに手や足に現れるのが特徴です。そのため病院受診のきっかけとなるものが多く、自分では気づかずご家族やお友だちに指摘されるのが典型的です。しかし、ふるえに気づいて病院を受診したときには、もつすでに動作が鈍く、何をするにも時間がかかり、一緒に散歩して

も家族について行けないなど、運動緩慢と呼ばれるパーキンソン病の中核的状態を自覚していることが多いです。ご近所さんやお友だちの症状に気づいたら、ぜひ、私たち脳神経内科への受診を勧めてください。

ことから骨折の危険もあり、高齢者では姿勢異常を来す恐れもあります。現在では運動障害のみならず、便秘や発汗障害、よだれが多くなるなどの自律神経障害や嗅覚障害などの感覚障害、うつ症状などの気分障害、脳神経内科への受診がとて

く診断され治療を受ければ症状は軽減され、通常の生活ができて、生命予後には影響を与えないことが分かっています。パーキンソン病によく似た症状を来す病気もいくつかあるため、脳神経内科への受診がとて

いわて医療通信 【超高齢化社会を支えるお仕事】

5. 意外と多い

パーキンソン病

も重要です。そして病気が進むことで薬物療法の効果が不安定になることもよく知られています。その場合でも治療方法が確立されていて、脳深部刺激療法や治療薬の持続経腸療法および持続皮下注療法などが実施可能です。岩手医科大学ではこれら全ての実施が可能な体制が整っています。これらの治療をお考えの患者さんは、



治療経過を把握する必要があります。そのため、自分の主治医とご相談の上で受診をご検討ください。

が目立つ症状で、日常生活や仕事に必要な動作が鈍くなる運動障害疾患と呼ばれる病気の代表です。有病率は1000人に1人、70歳以上では100人に1人とされ

認知機能障害の合併なども知られるようになり、全身性疾患と捉えられています。根治療法がまだ開発されていないため日本では神経難病に指定されています。しかし、薬物療法が有効な病気であることから、正し

岩手医科大学 脳神経内科・老年科

は1000人に1人、70歳以上では100人に1人とされ

難病に指定されています。しかし、薬物療法が有効な病気であることから、正し

岩手医科大学 脳神経内科・老年科

は1000人に1人、70歳以上では100人に1人とされ

難病に指定されています。しかし、薬物療法が有効な病気であることから、正し

岩手医科大学 脳神経内科・老年科

は1000人に1人、70歳以上では100人に1人とされ

難病に指定されています。しかし、薬物療法が有効な病気であることから、正し

岩手医科大学 脳神経内科・老年科 前田哲也